



東京NBCアワード 2019

式次第

16時15分～16時35分 **NBCアワード2019 表彰式**

16時35分～17時15分 **NBCアワード2019 受賞者スピーチ**
●第2回 経営者大賞 ●第14回 IPO大賞 ●東京NBC2019年度MVP
※表彰式後は、引き続き新春賀詞交歓会をお楽しみください。18時終宴予定。

IPO大賞とは

株式の上場で日本経済の活性化に貢献している、或いは牽引役となっている企業を顕彰することにより、その意義を世間に広報すると共に、ニュービジネスやベンチャー企業の振興と育成に寄与することを目的として、2006年度に創設され、今年度で14回目。昨年度の第13回目まで、ルーキー部門（上場後1年未満の企業）とグロース部門（上場後4年経過の企業）をそれぞれ選出していました。

第14回目となる今回からは、2019年9月迄に全国で株式上場を果たした企業3,809社の中から、株式の上場で日本経済の活性化に貢献している、或いは牽引役となっている企業を1社選出致しました。

<選考委員会>

一般社団法人東京ニュービジネス協議会アワード委員会（木地本 朋奈委員長）、
（一財）大川ドリーム基金理事長 井上 智治様（株井上ビジネスコンサルティング/代表取締役）、その他上場経験のあるNBC理事を含むNBC会員で構成されています。
共催：公益社団法人 日本ニュービジネス協議会連合会
協賛：一般財団法人 大川ドリーム基金
後援：日本ベンチャー学会

東京NBC 経営者大賞とは

東京NBCアワード 経営者大賞は、学術的な視点や数字に加え東京NBC会員経営者が選ぶ、経営者のための賞として発足しました。様々なタイプの経営者を顕彰することで、「成功」の概念の多様性を示し、その意義や社会への貢献を世間に広報すると共に、その企業のストーリーから学ぶことで、NBC会員を勇気づけ、ニュービジネスやベンチャー企業の振興と育成、及びNBCの繁栄に寄与することを目的としています。

東京NBC 2019年度 MVP

東京ニュービジネス協議会の2019年度委員長14名に東京NBCの活動に最も貢献しているNBC会員をご推薦頂き、NBCアワード審査委員会で、絞込みを行いました。尚、東京NBCへの貢献については、積極的な委員会活動、新入会員勧誘、NBCの知名度アップ等、多面的な観点から評価をさせて頂きました。

東京ニュービジネス協議会とは

一般社団法人東京ニュービジネス協議会（略称;NBC）は、ニュービジネス振興の為に「政策提言」、ニュービジネスに関する様々な「研究・情報提供」、ニュービジネスの起業家の育成・発掘の「支援事業」、会員企業の経営強化や経営者相互の研鑽のための「委員会・研究部会」を行っている経営者団体です。1985年9月にニュービジネスの振興に寄与する我が国初の公益法人として、社団法人ニュービジネス協議会が設立され、業種業態を横断し、産業構造の変化に即応する切り札の役割を担って参りました。公益法人改革に伴い一般社団法人に移行し、「東京ニュービジネス協議会」に名称変更し今日に至ります。

NBC歴代会長

初代理事長	野田 一夫氏(多摩大学名誉学長:1985年)
初代会長	関本 忠弘氏(故人・日本電気株会長:1986年～1994年)
2代会長	樋口廣太郎氏 (故人・アサヒビール株会長:1994年～1996年)
3代会長	大川 功氏(故人・株CSK社長:1996年～1998年)
4代会長	高原 慶一氏 (故人・ユニ・チャーム株取締役ファウンダー:1998年～2000年)
5代会長	志太 勤氏 (シダックス株 取締役最高顧問:2000年～2006年)
6代会長	池田 弘氏(NSGグループ代表:2006年～2012年) 現在、公益社団法人日本ニュービジネス協議会連合会 会長。
7代会長	大久保秀夫氏(株フォーバル会長:2012年～2014年)
8代会長	下村 朱美氏(株ミス・パリ 代表取締役:2014年～2020年)
9代会長	井川 幸広氏 (株クリーク・アンド・リバー社 代表取締役社長:2020年～)

主催者ご挨拶



井川 幸広

一般社団法人 東京ニュービジネス協議会(NBC)会長
(株)クリーク・アンド・リバー社 代表取締役社長

まずは、この度、栄えある栄誉に輝きました皆様に敬意を表します。

東京NBCがIPO大賞を創設した2007年。その2年後、リーマンショックのあおりを日本市場が受け始めた頃、奇遇にもIPO大賞の委員長に任命され大会運営に取り組んだことを思い出します。IPOは企業成長の通過点であり決してゴールではないことや、事業性や企業の成り立ちから、あえてIPOを選択しない経営についてなど、大賞創設時には、会員の皆さんと議論を重ねました。

日本経済の活力のバロメーターでもあるIPO企業数は、マザーズやベンチャー市場が誕生した翌年の2000年の204社をピークに、リーマンショック後の2009年には19社に落ち込みました。その後少しずつ増加したものの10年たった昨年98社。20年前の半数にも達していません。世界銀行がランク付けに重視しているニュービジネスの企業数で日本は11位。起業のしやすさランキングでは89位と大きく後れをとっています。

経済大国と位置づけられながらも他国と比べて起業数が少ない日本にとって、国を挙げてのビジネス環境の整備はもちろんのこと、起業家を育成し、経営者同士が切磋琢磨しあう環境を整えることは、急務の課題であり、東京NBCの果たすべき役割は大変大きいと感じています。

起業や独立は人生をかけての一大イベントです。大義をもって事を興し、人を雇用し、育て、会社を成長させ、関係するステークホルダー、ひいては社会の幸せに貢献する。そこに至るまでには幾多の苦難に直面することが想像されます。その一つ一つの壁を、揺るぎない情熱と強い信念をもって乗り越えてきた経営者の生きざまは多くの人たちの指針になります。

誰もが経験し得てない、到達し得てない、自分の先をいく先人たちの叡智には多くの学びが詰まっています。「IPO大賞」「経営者大賞」は、その方の栄誉を称えと同時に、我々経営者が、今、学ぶべき人を指し示す機会と捉えていただければ幸いです。

コロナ渦で経営を取り巻く環境は厳しくなっておりますが、NBC会員企業の皆様の持ち前のチャレンジ精神で企業を成長させるべく、東京NBCがその原動力になればと思う次第です。本日、各賞を受賞された皆様、本当におめでとうございました。

受賞された経営者の皆様に、心から敬意を表します。

私は年商10億円になった頃、30代でNBCに入会しました。経営者は年商1億、3億、10億規模の頃に、まずは壁にぶつかると言われていますが、まさしくその頃でした。

IPO委員会の副委員長を担当した際には、まるで上場審査の現場にいるようで、とても刺激的でした。若い経営者こそ、「上場の意義」と「上場のメリット」そして他ではあまり語られない「デメリット」をも、学んでほしいと思います。

先輩経営者がどうやって壁を突破してきたのか、挫折からどう立ち上がったのか、またスタートアップ事業にどんなアイデアがあるのか、何故上場廃止をするのか。ケーススタディの宝庫のようなNBCに、凄まじい価値を感じてきました。ご講演だけでは聞けないことも沢山ありますので、委員会活動を通して、守秘義務という経営者の作法を守り、お互いを高め合ってほしいと思います。また、IPO大賞と共に、NBCの仲間を称える賞の創設、という私の夢が叶いました。誰かの為になる活動を自分から実行することが、更に大きな自分の未来に繋がります。NBC経営者同士の未来への研鑽と、ご事業の繁栄を祈念しています。



湯川 智子

NBC副会長PR部門担当
(株)サピエント 代表取締役
(株)CO2資源化研究所 取締役副社長



木地本 朋奈

NBC理事
アワード委員会委員長
(株)トリオン 代表取締役

東京ニュービジネス協議会（NBC）では、過去13年にわたってIPO大賞を選考して参りました。

従来、このIPO大賞の選考委員会がアワード委員会でありましたが、昨年度からは、多くのアワード委員の皆さんの意見を聴取し、従来からのIPO大賞に加えて、NBCの会員が選ぶNBC会員経営者のための賞を設けることに至りました。

今回は、全国のNBC会員経営者の中からNBC経営者大賞1名と、NBCの理事でもある各委員会委員長に候補者をご推薦いただき、NBC年間MVP3名を選出させていただくことになりました。

私自身、NBCに20年以上所属させていただき、NBC活動を通じて沢山の創業経営者やニュービジネスを創出した成功経営者の方々から、身近で直接的な様々なアドバイスをいただき、学習をさせていただいたことが、どれだけ自社の成長に寄与したのか、言葉に表せないほど感謝の気持ちで一杯であり、この表彰に関われたことを、とても嬉しく感じております。

IPO大賞、NBC経営者大賞、並びにNBC年間MVPの表彰をさせていただくことで、さまざまな新しいビジネスの成功を示し、またその意義と社会への貢献を世間に広報しつつ、更に多くのNBC会員経営者を勇気づけることになれば幸いに存じます。

東京NBCアワード



第2回 経営者大賞

東京NBCアワード 経営者大賞は、学術的な視点や数字に加え東京NBC会員経営者が選ぶ、経営者のための賞として発足しました。様々なタイプの経営者を顕彰することで、「成功」の概念の多様性を示し、その意義や社会への貢献を世間に広報すると共に、その企業のストーリーから学ぶことで、NBC会員を勇気づけ、ニュービジネスやベンチャー企業の振興と育成、及びNBCの繁栄に寄与することを目的としています。

経営者大賞 受賞



アイリスオーヤマ株式会社

代表取締役会長
大山 健太郎 様

父親の急逝により19歳で家業を継承し56年間、暮らしをより豊かで快適にするためのものづくりに長年尽力されてきました。会社を引き継いだ当初5名だった社員は、現在約1万3000名。また日本のみならず 世界7か国に拠点を置くグローバル企業へと成長をされています。

オイルショックのリバウンドで倒産の危機を乗り越え、「メーカーベンダー」という独自のプラットフォームを構築したことに加え、「ユーザーイン発想」で消費者目線の商品開発を行っています。

このような新しい商流を築くことで、アイリスオーヤマ株式会社はその地位を確固たるものにしてきました。その経営手腕には、経営者が学ぶべきところが多く、第2回経営者大賞に選出させて頂きました。

また、東北ニュービジネス協議会においては、2002年に三代目会長に就任してから2016年まで14年間に渡り会長を務められ、その間に宮城県中心だった活動を、福島・青森・山形・岩手・秋田の各県に支部を設立し、東北全域に広げられ、また「ビジネスマッチ東北」という現在も続くイベントの礎を築かれました。その活動への尽力から、2009年には「藍綬褒章」を受章されています。また、JNBでの活動に加え、震災復興と農業



振興のために精米事業を行うグループ会社を設立。被災地復興のために各地で人材育成道場を開くなどの活動が認められ、2017年には「旭日重光章」を受章しています。現在は日本ニュービジネス協議会連合会の副会長を務められ、全国のNBCに所属する後進の経営者に多くの勇気を与えて下さっています。

経営者大賞過去の受賞者

▶第1回経営者大賞
株式会社クリーク・アンド・リバー社 代表取締役社長 井川 幸広 氏

第14回IPO大賞

2019年9月迄に全国で株式上場を果たした企業 3,809社の中から、株式の上場で日本経済の活性化に貢献している、或いは牽引役となっている企業を1社選出致しました。



株式会社 識学

株式会社識学

2015年3月5日設立、
上場日 2019年2月22日 マザーズ

代表取締役社長
安藤 広大 様

「識学」という独自の組織運営メソッドを確立し、非常に利益率の高いビジネスモデルを構築した新規性や、経営者へのマンツーマントレーニングを入り口とし、そこから、組織幹部、管理者層、新入社員と、複数のサービス提供へとつなげ、顧客と中長期的な信頼関係を堅実に築く成長性、創業からわずか3年11カ月でマザーズ上場を果たしたスピードを評価しました。



IPO大賞過去の受賞企業

- | | |
|---|---|
| ▶第1回(2007年)
ルーキー部門 株式会社ミクシィ、株式会社シニアコミュニケーションズ
グロース部門 シミック株式会社、株式会社ワークスアプリケーションズ | ▶第8回(2014年)
ルーキー部門 株式会社ユーグレナ
グロース部門 クックパッド株式会社 |
| ▶第2回(2008年)
ルーキー部門 株式会社ネクスト
グロース部門 株式会社ワコム | ▶第9回(2015年)
ルーキー部門 CYBERDYNE株式会社
グロース部門 株式会社エスクリ |
| ▶第3回(2009年)
ルーキー部門 株式会社エス・エム・エス
グロース部門 株式会社ハニース | ▶第10回(2016年)
ルーキー部門 株式会社Gunosy
グロース部門 KLab株式会社 |
| ▶第4回(2010年)
ルーキー部門 クックパッド株式会社
グロース部門 株式会社ディー・エヌ・エー | ▶第11回(2017年)
ルーキー部門 株式会社農業総合研究所
グロース部門 株式会社アイスタイル |
| ▶第5回(2011年)
ルーキー部門 アニコムホールディングス株式会社
グロース部門 株式会社トリドール | ▶第12回(2018年)
ルーキー部門 UUUM株式会社
グロース部門 ペプチドリーム株式会社 |
| ▶第6回(2012年)
ルーキー部門 KLab株式会社
グロース部門 株式会社ネクスト | ▶第13回(2019年)
ルーキー部門 株式会社メルカリ、RPAホールディングス株式会社
グロース部門 トレックスセミコンダクター株式会社 |
| ▶第7回(2013年)
ルーキー部門 株式会社リブセンス
グロース部門 株式会社デジタルハーツ | |

東京NBCアワード



2019年度 MVP

東京ニュービジネス協議会の2019年度委員長14名にNBCに貢献している会員についてヒアリングを行った結果から、NBCアワード審査委員会で、絞り込みを行いました。尚、東京NBCへの貢献については、積極的な委員会活動、新入会員勧誘、知名度アップ等どのような観点からの貢献でも構わないとしています。

2019年度MVP 受賞者

松下運輸株式会社

代表取締役社長
坂田 生子 様

2006年3月以来現在まで14年間にわたり理事にご就任頂き、その間に広報委員会、女性活躍推進委員会、政策提言委員会と数々の委員会活動で委員長を務め頂いています。

2016年、全国大会の際、全国の女性会員が集まり交流をする会を徳島大会で開催。以来、委員長が変わっても毎年全国大会の際に、女性経営者の集まりが開催されることとなり、年々参加者が増えています。

2019年度は特に、政策提言委員長として、東京都小池百合子都知事に、東京都の年度予算に対し、団体要望を出す機会を設けるのにご尽力頂き、起業に関わる東京都予算が前年度比で倍に増えるなど、広く内外を巻き込みNBCが提唱する「起業を是とする社会」の実現に貢献されました。



▲ 政策提言委員会で活躍をする坂田 生子 様



▲ 教育・人材委員会で活躍をする山尾 百合子 様



▲ 国際ビジネス委員会で活躍をする和田 正 様

過去のMVP 受賞者

- ▶ 2018年度
株式会社 KANSEI Design & Co. 代表取締役会長 柳川 舞 様
株式会社 Ubicomホールディングス 代表取締役社長(CEO) 青木 正之 様

2019年度MVP 受賞者

株式会社 メイン

代表取締役会長
山尾 百合子 様

2006年3月以来現在まで14年間にわたり理事にご就任頂き、その間にイベント交流委員会、教育・人材委員会の委員長を務められ、特に、教育・人材委員会では2019年までの7年にわたり委員長を務めて頂きました。

教育・人材委員会では、文京学院大学、山梨学院大学、国学院大学、上智大学、明治大学、早稲田大学など様々な大学の起業家教育授業に、NBC会員を講師として派遣する「出前社長」を実施。また、高校生向けにも、文京学院大学女子高校、聖徳学園高校、東京実業高校での出張授業や、高校生の会社訪問の受け入れを行い、さいたまシニア大学へもNBC会員を講師として派遣するなど、幅広い世代への起業家教育の普及に貢献していただきました。



2019年度MVP 受賞者

弁護士

和田 正 様

2019年度委員長からの推薦を最も多く集めました。各委員長から最も信頼され、頼りにされ、多くの方がその実行力に感謝しておられます。特に、国際ビジネス委員会主催の「グローバル人材フォーラム」の開催においてご尽力を頂き、イベントを成功に導いて下さいました。2020年6月には東京ニュービジネス協議会理事にご就任頂きました。

今後ますますのご活躍を期待しています。

